

光と緑の風通信

発行/2009年2月25日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL024-547-1111(代)



一期生と共に 筆者 中央

変わりゆく世界へ飛び立つ卒業生へ

看護学部長 中山 洋子

世界は百年に一度と言われるような経済危機に見舞われています。昨年暮れから今年の正月にかけて、テレビや新聞報道で、「派遣切り」「内定取り消し」「従業員の削減」という言葉が飛び交っています。間もなく社会人として巣立つという卒業生にとっては、就職の不安はないものの、明るい華やいた気持ちにはなれなかったことと思います。考えてみれば、「危機」とはこれまでの対処のしかたでは問題の解決ができないような困難に直面したときに陥るものです。「危機」への対応には、これまでの価値観を変えなければならぬことがありますが、不安定な状態ですから、「危機」は変革の時でもあるといわれています。

私は、昨年の九月中旬にウズベキスタ

卒業生にむけて

message 3 professor

美しいうちへ

総合科学部門 亀田 政則



いにしえのひとびとは、人間のいのちは「時間的制約をもって貸し付けられたものである」と考えていました。今風に

いえば、「ローン」という言葉がそれにあたります。ローンなので、やがて利子をつけてお返ししなければならぬ、と考えていたのです。では、利子分を稼ぎ出すためにはどうすればよいのでしょうか？

利子は、わたしたちが貸し付けられたいのちを「どのよう」「なんのために用いたらよいのか」という問い——このことなしに人間は生きてゆくことを潔しとはしません（ドストエフスキー）——に誠実に応答して

プロフェッショナルとして

ケアシステム開発部門 結城 美智子

美智子



するための美しい道が豊かに備わっています。まずはこの道を着実に歩んでみましょう。そして問いへの応答をよくよく思索し見出し出してくださいますように。真摯に歩み続ければ、みなさまのいのちのなかには、やがて返すべき利子がきちんと貯蓄されているはずですよ。美しいいのちの時間をお過ごしくださいますように！ (かめだ まさのり)

卒業、修了を迎える皆さん、おめでとうございます。

入学した時に熱く語った抱負は達成できましたか。そして、今また新たなスタートラインに立ちました。仕事の面ではいよいよ看護のプロフェッショナルです。私自身の学生時代を振り返り、先生方から学び、今でも心に残っているプロフェッショナルとしての二つの教訓があります。その一つは、専門を極めるにはT字型に追求する姿勢を忘れないということです。Tの横の線は、広がりや意味を意味し、幅広い視野をもつことを意味します。看護の仕事は人を対象とする仕事ですから、人の価値観や生活にかかわることになります。ケアする上で唯一絶対の正解はほとんどありません。試験問題のような100点の正解を求めるのではなく、最善の

答えを考え創り出すことが求められます。そのためには人それぞれの価値観や生活を謙虚に学ぶことが大切となりましょう。T字の縦の線はより専門を深めることを意味し、看護を追求し、学び続けることと言えます。もう一つの教訓は、プロフェッショナルとして自分に投資することです。初めてのお給料は待ち遠しく、すでに楽しいプランもあるでしょう。お給料の一部は専門書を購入したり、研修会等への参加など、時間と労力と経済的コストをかけてプロフェッショナルとしての自分を育てていくことは楽しいことでもありません。未来に希望をもち、自分の力を十分に発揮してプロフェッショナルとして活躍されることを心から応援しています。 (ゆづき みちこ)



大学院生 小林 ヒトミ

学生生活を振り返って

大学院での学生生活を振り返ってみると、楽しいことも辛いことも多く... 大学院での学生生活を振り返ってみると、楽しいことも辛いことも多く...

在校生の皆様へ



4年 柴田 奈美

大学に入学して早4年が過ぎようとしています。全ての実習を終え、国家試験を間近にひかえた今、4年間を振り返るとたくさん思い出が... 大学に入学して早4年が過ぎようとしています。全ての実習を終え、国家試験を間近にひかえた今、4年間を振り返るとたくさん思い出が...

出会いと感謝



編入4年 松崎 修子

約2年前、期待と不安に胸をふくらませ、この福島県立医科大学の門をくぐったことを鮮明に覚えています。あつという間の2年間で、月日が経つのは本当に早いものです。この大学では様々な出会いをする... 約2年前、期待と不安に胸をふくらませ、この福島県立医科大学の門をくぐったことを鮮明に覚えています。あつという間の2年間で、月日が経つのは本当に早いものです。この大学では様々な出会いをする...

くさんの方々には心から感謝しています。大学はたくさんの方々の支えのおかげで、この看護学部には素晴らしい先生方がいます。実習中は私と向き合い、学習面だけでなく精神的にもよきアドバイスをいただきました。今振り返ると、大学生活での多くの出会いが私を成長させてくれたと思つています。大学4年間はともかくがえのない時間だと思つています。在校生のみならず、「今」を大切に充実したキャンパスライフを送ってください。(しばた なみ)

くさんの方々には心から感謝しています。大学はたくさんの方々の支えのおかげで、この看護学部には素晴らしい先生方がいます。実習中は私と向き合い、学習面だけでなく精神的にもよきアドバイスをいただきました。今振り返ると、大学生活での多くの出会いが私を成長させてくれたと思つています。大学4年間はともかくがえのない時間だと思つています。在校生のみならず、「今」を大切に充実したキャンパスライフを送ってください。(しばた なみ)

実習をとおして学んだこと



3年 大竹 優香

成人看護学実習から始まり、老人精神の3つの領域の実習を終えました。これらの実習を通して、対象者に援助を行なう際にはその個人に合わせた援助を行うことが大切であるとわかりました。そのためには、講義等で学んださまざまな知識と得た情報から、分析・解釈してアセスメントする力が必要であると実感しました。また、対象に合わせた看護ケアが行えるように、基本となる技術の練習が非常に重要だと感じました。そして、これらのことが自身の課題であるという事に気づきました。今までの実習で明らかにした課題を克服できるように、知識の習得や援助技術の練習に力を入れ、対象者にあつた看護実践が行えるようにしていきたいと思つています。(おおたけ ゆか)

領域別実習・小児看護学実習を終えての感想



3年 酒井 明恵

精神、母性、小児の領域別実習を終えて、今まで病気に焦点を当てて取り組むことが少なかったため、今回の小児看護学実習では疾病の事や薬の事を調べて理解するのが大変でした。また、小児が対象であるため大人ならわかることも小児にはわからないし、我慢できなかったり、うまく症状を伝えられなかったりということもあるので、小児看護ならではの難しい部分を経験出来ました。小児の実習も辛い部分もありましたが、子どもの笑顔や元気に遊んでいる姿に自分が励まされて、精神的な面で子どもに助けられた実習だと思つています。一番病棟での時間が瞬く間に過ぎていった実習でした。どの領域の実習でもいえる事ですが、患者さんの笑顔が看護師のやりがいであることが実感できました。(さかい あきえ)

課題別実習を終えて



4年 佐藤 由香里

私は基礎領域で課題別実習を行いました。基礎領域における実習では、すべての領域の根幹にある「看護」という概念や「看護を行う自分」について深く考えられたのではないかと感じます。課題を選定するに当たって自分のこれまでの実習での患者さんとかかわり方を振り返り、自分には何が足りないのかということを考えてみました。さらに、様々な場面で見つめ直す機会が多くなりました。また、患者さんに対して、患者さんに伝えていかなければならないということや学びました。実習を通して自分の看護観を大きく育てることができ、この学びを忘れずに現場に出ても理想と向上心を持ち続けたいと思つきました。(さとう ゆかり)

看護管理学・リーダーシップ論実習を終えて



4年 菅野 さちえ

先日、4年間で最後の実習となる看護管理実習を終えました。今までは、患者様にケアを提供することが中心の実習でしたが、今回の実習は看護組織の管理・運営方法やリーダーシップについての実習でした。患者様にケアを提供するのは一人ひとりの看護師です。看護師の資質が高くなければ患者様に満足してもらえない看護を提供することはできません。そのため、看護師の資質を高める環境づくりが管理者に求められると考えました。また、理想を一方的に押し付けても資質の高い看護師は育ちません。管理者は一人ひとりの看護師の能力や人間性を見極め、その看護師自身が自己課題に気づき、成長できるような導きをするのが大切であることも学びました。春から看護師として働きます。常に目標を掲げ、成長し続ける看護師を目指したいと思います。(かの さちえ)

看護ケア提供システム実習を終えて



1年 林 理紗

10月4日から4日間、病院・保育所・介護老人保健施設・事業所を訪問し、各所での看護師の役割について学びました。どの施設の看護師も、利用者の健康や安全を第一に考え、各施設に適した工夫をしていることがわかりました。また、私は介護老人保健施設や事業所は初めて訪問したので、驚きや戸惑いもありました。中でも印象的だったのは、介護老人保健施設での施設の徹底でした。利用者が間違えて外に出ないように、職員が気付かない間にお風呂場などに入ってしまった場合、するなどの危険性があるからです。施設を利用されている方々は、認知症の方も多く、どこかに迷い込んでしまったら戻ってこれなかったり、助けを呼ぶことができないのだと思つきました。利用者は私が考えているより常に危険と隣り合わせなのだと気づきました。今回の実習では、各施設の普段見られない部分もみせていただき、視野が広がりました。今回学んだことは、ぜひ今後の学習に役立てていきたいです。(はやし りさ)

在校生から

卒業生へ贈る言葉

卒業おめでとうございます。コンピュータ室でPCとにらめっこしている姿が思い出されます。その姿から看護研究の難しさや大変さを学びました。そして、ふだんの会話から自分の研究に対する情熱と愛情をひしひしと感じ、一人感動していました。みなさんとは、一緒に講義を受ける機会はありません。

卒業される先輩方へ



3年 菅野 花織

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私が入学して、もう3年が経ち、月日が経つのは早いと感じています。きつと4年間もあつという間だったので、1学年上の先輩方は、私たちにとって最も身近で頼りになる存在でした。

入学当初は、何も分からない私たちをいつも気遣ってくれました。基礎実習前は、緊張している私たちを励ましてくれた。今回の領域別実習前にも、経験談やアドバイスをたくさんいただきました。部活やサークルなどでも、思い出は語りきれません。今まで本当にありがとうございました。これから就職という新たな道に進む先輩方に、今度は私たちがからメールを送ります。4年間学んできたことを大事にし、これからも頑張ってください。(かの かおり)

おめでとうございませう



大学院1年 伊藤 佳美

まりありませんでしたが、お昼などのおしゃべりがとても興味深く、楽しかったことを覚えていてます。みなさんと出会え、関わる機会が持てたことが私にとって大切な財産となっているような気がします。今となってはもつとたくさんのお話を聞きたかったなと思つています。これからの活躍を心より祈つております。福島にいらつしゃつた際には、ぜひお立ち寄りください。(いとう よしみ)

成果発表・記念コンサート開催される

福島県立医科大学の光が丘キャンパス移転20周年、看護学部設置10周年、完全法人化を記念して、2008年11月2日(日)に福島県文化センターにて「福島県立医科大学アニバーサリー2008 成果発表・記念コンサート」が開催されました。会には、学内及び学外からの参加者を含め、約490名の参加がありました。



広報委員 飯塚 麻紀

第一部では、医学部・看護学部の学生によるピアノ・管弦楽の演奏やアカペラ・混声合唱団の発表があり、それぞれ日頃のサークル活動の成果を発表していました。第二部では、看護学部の加藤清司教授の開会宣言の後、菊地臣一理事長の挨拶があり、続いて医学部・看護学部の学生と、臨床研修医の3名によるプレゼンテーションが行われました。看護学部からは、3年生の嶋原利洋さんが「日々の生活から考える福島県立医科大学」というテーマで、充実した学生生活のための提案などを発表しました。その後、新しいイメージデザインマークおよび学生歌が発表され、本大学の未来に向けた宣言として掲げた5つのビジョンの発表と説明がなされました。

(いつか まき)

ビジョン 2008

- I. 県民医療の原点としての
福島県立医科大学
「人々の健康を守る優れた医療人を育成し、医療における「福島モデル」の創出を目指します」
- II. 学生を魅了する**福島県立医科大学**
「向学心に燃えた“次世代の学生”が集う“魅力”ある大学になります」
- III. 世界標準となる新しい医療を創る
福島県立医科大学
「連携力・研究力」で世界に通じる新たな医療の創出を目指します」
- IV. 心通う医療を追究する
福島県立医科大学
「人々の声に耳を尊び、「心通う医療」の実現を目指します」
- V. 常に発展する**福島県立医科大学**
「自らの意志」で将来を展望し“進化”します」

新しい歌 誕生

逍遙歌「母校」、大学歌「光の鳥」に続き、**福島県立医科大学**に新たな歌が今年誕生します。

作詞は、福島市在住で第四回中原中也賞を受賞するほど活躍が盛ましい詩人の「和合亮」氏が担当。作曲は、市川県監修作品の音楽担当や日本アカデミー賞優秀音楽賞も受賞している作曲家「レオニスト」の「谷川賢作」氏が担当され、現在作曲中で2月に完成予定です。

ラララ光の丘で

光の丘で
わたしたちは風
こころざす木に
熱い頬あて

光の丘で
うぶごえはるか
新しい人
きみはまぶしい

誕生のとき
ラララ見あげて

きみはまぶしい
ラララ見あげて

光の丘で
わたしたちは森
高まる空に
揺らす知恵の葉

術のあしあと
新しい道
語ろう大地
光る涙に

生きるとはなに
ラララ見あげて

生きるとはなに
ラララ見あげて



花降る朝の
医学の誓
明ける空まで
こころをそめて

明ける空まで
ラララ見あげて

アニバーサリー2008 PRプロジェクトに参加して



4年 吉田 愛

私は、看護政策論の授業の一環として、2008年11月2日に行われたアニバーサリー2008のPR活動に参加しました。活動内容は、多くの福島医大生や地域住民の方に式典に出席してもらえよう、ポスター、チラシ、新聞を使った呼びかけや、米場記念品に関する企画・運営を式典の運営を行う医大企画財務課の方と協力して進めていくというものでした。このプロジェクトを通して、政策の対象となる人の心を掴むためには、まず自分であつたらどのような呼びかけがあれば興味を持つかなどということとその人の立場に立って考えることが大切であるということを学びました。

今回は看護政策という概念の中で対象の立場を大切に考えた考え方を学びましたが、この考え方は臨床に出てから患者さんなどを対象とした場合にも大切なことであると思います。医療者としての立場を保つことも重要ですが、一人の人間として感じる気持ちを持つことも大切です。そのため、今後その考え方を忘れずに、対象者の気持ちを理解しようとする姿勢を持ち続け、患者さんから信頼される看護師になりたいと思います。

(よしだ あい)

第2回公開講座 11月8日

看護のスペシャリストとは

公開講座委員会委員長 黒田 真理子

平成20年度の第2回公開講座は、11月8日(土)に、「看護のスペシャリストって?」看護ケアの向上をめざした専門看護師活動」というテーマで、シンポジウム形式で実施されました。

本学部応用看護学部門の眞壁玲子教授から「専門看護師を育成する立場から」として専門看護師(Certified Nurse Specialist)に関する詳しい話が



▲第2回公開講座の様子

あり、同部門の三浦浅子講師(がん看護専門看護師)から「がん看護専門看護師の活動」、同部門の加藤郁子助教(精神看護専門看護師候補生)から「精神看護専門看護師の活動」総合病院でのリエゾン活動を中心」に、同部門の古橋知子講師(小児看護専門看護師)から「小児看護専門看護師の活動、専門看護師の活動の特徴」などが紹介されました。そ

第1回公開講座 10月11日

住民の目で見る安心医療

公開講座委員会 副委員長 竹谷 美穂

第1回目の公開講座は、「福島島の安全医療をめざして」とも考えませんか」というテーマで、10月11日(土)に実施されました。この会では、現在の福島県の医療の状況や問題を知

ること、また、これからの福島の医療がどうあつたらよいかを住民の目線から考えることを目的としてシンポジウムが行われ、20代から70代までの45名の方に参加いただきました。

初めに、福島県保健福祉部・医療看護課の菅野敏先生より「福島県の医療の現状や問題となっていることとともに、行政からの提案や住民向けの情報について」ご紹介いただきました。次に、福島赤十字病院・地域医療連携室の伊藤和子先生か

授業を通して学んだこと

生態看護学ⅢA

「糖尿病患者さんの体験談を聞いて」

その後、私の司会にて全体討議がなされ、「専門看護師の育成のためには経済面での支援も大切」、「専門看護師とジェネラリスト、両方の育成が大切」ということなどいろいろな意見交換がなされました。

第2回の参加者は57名であり、20代から50代までの主に看護師の方が多く、「専門看護師の必要性がわかった」、「専門看護師の数が増えてほしい」といった意見がありました。

(くろだ まりこ)

今回、私たちは授業の一環として、糖尿病患者さんご自身からお話をうかがいました。患者さんは、現在も糖尿病と日々闘っている方で、入院中の辛さや合併症への不安、食事療法・運動療法の厳しさなどを話してくださいました。普段の授業などで、糖尿病は大変な病気であると学んでいましたが、実際に糖尿病と闘っている患者さんの体験談をうかがい、あらためて糖尿病の辛さを実感しました。また、入院生活の中では、看護師の患者さんに対する声のかけ方や、言葉一つで、患者さ

ら「2次医療施設である県北地区の総合病院に受診している住民のニーズや問題、取り組みについて」地域医療連携に関わっている保健師の立

場から現状をご報告いただきました。最後に、本学医学部・地域・家庭医療部の葛西龍樹教



▲第一回公開講座の様子

授より「家庭医はどのようなものか、今回の問題の解決のヒントとともに今後の福島の地域医療について」のお話をしていただきました。その後は、ご参加いただいた皆様からたく

さんご質問をいただき、全体討議を進めることができました。

今後、住民の人々がいろいろな提案ができる開かれた公開講座になれるように継続していきたいと、「福島島の安全医療をめざして」とともに考えませんか」はゆつくりと現実のものになってゆくのではないでしょう

(たけや みほ)



2年 櫻田 翔織

んの気持ちが大きく変化するという話もしていただきました。その話を聞いて、私がこれから実習で入院中の患者さんに接するようになった時に、どのように声をかければよいのかなどについて深く考える良い機会になりました。

実際に糖尿病患者さんの体験談を聞くということは、授業では知ることができないお客様のことを学ぶことができた、貴重な体験であったと思います。この学びを、これからの看護の勉強に活かしていきたいと思

(さくらだ かおり)

看護学部カレンダー

- 3月24日(火) 学位記授与式
- 4月 2日(木) 在学生オリエンテーション(新4年次生)
- 4月 3日(金) 在学生オリエンテーション(新2・3年次生)
- 4月 6日(月) 入学式
- 4月 7日(火) 新入生オリエンテーション
- 6月18日(木) 開学記念日
- 7月 4日(土) オープンキャンパス

看護学部同窓会の活動

同窓会長 菊地香織



筆者 前列右

【幹部 5期生】
会長：菊地香織、副会長：菅野美幸
斉藤千聡、原田亜由美、中村梨絵

看護学部同窓会は、「会員相互の親睦と研修を図ると共に、福島県立医科大学看護学部の発展に寄与し、併せて学術研究の向上に貢献すること」を目的とし、看護学部1期生の手によって立ち上げられました。始めは80名程度だった同窓会も、現在では7期生をむかえ、会員数600名を超える大きな組織となりました。現在は主に卒業3年目を幹部学年とし活動しています。主な活動内

「子どもの看護を考える会」の紹介



生態看護学部門
鈴木 学爾

「子どもの看護を考える会」は生態看護学部門鈴木千衣准教授を代表のもとに2005年に発足しました。福島県内の小児看護に携わる看

容としては、6月の総会及び懇親会の開催、会報・会員名簿・印刷物の発行、在校生との交流(就職説明会、国試見送り、卒業式等)、奨学金制度等を行っています。昨年には、一人でも多くの会員と交流が持てるようにとホームページを開設しました。同窓会の存在は、在校生にとつてはあまり馴染みのないものかもしれませんが。しかし私たち卒業生は、在校生の皆様が本校で充実した生活を送り、将来様々な場で活躍されることを期待し、そのお手伝いができればと思っています。

同窓会はまだまだ発展途上にあります。これからも多くの方々との交流を大切にしながら楽しく活動していきたいと思えます。(きくち かおり)

護師さんを対象に、入院中の子どもや家族の生活の質(QOL)の向上を目指して、情報交換や勉強会を行っています。これまでのテーマは「子どものプレパレーション(医療処置を受けるさいに子どもが覚悟できるように、準備できるような関わり)や入院環境などを取り上げてきました。

今年度は「子どもの救急看護」をテーマに取り上げ、6月に「小児救急認定看護師の活動状況」について小児救急認定看護師の講演会、11月に「福島県内における小児救急電話相談の現状とその対応を考える」という勉強会を開催しました。各回約30~40名の参加があり、小児救急看護の現状や病院での取り組みの紹介、意見交換などを通し、学びを深めることができました。今後も、子どもがより良い看護を受けられることができるよう活動していきたいと考えています。

(すずき がくじ)

編集後記

時折暖かい日ざしを感じられ、春の足音が聞えてくる頃となりました。卒業を迎える皆さんは、春の訪れと共に始まる新しい生活に向けて、様々な思いを巡らせていることでしょう。今号の「光と緑の風通信」には、新たな道への一歩を踏み出す卒業生の希望や決意、そしてそのような卒業生を応援するあたたかな思いが込められています。

最後に、お忙しいなか寄稿して頂きました皆様、に深く感謝申し上げます。(しよんじ まなみ)

編集委員

- 委員長 林 正幸
委員 本多たかし 野田 智子
横田 素美 濱尾 早苗
田中 克枝 根本 奈々
飯塚 麻紀 庄司真奈美

海外研修報告

フェルガナ医科大学との交流

ケアシステム開発部門 濱尾 早苗

2008年9月19日から9月24日の6日間、中央アジアに位置するウズベキスタンに行ってきました。

福島県ウズベキスタン文化経済交流協会の第21回親善交流団として総勢6名での訪問でした。福島県立医科大学からは看護学部の中山学部長と志賀先生、私の3人で参加しました。

未知の国に行った主な目的は、タシケント医科大学フェルガナ支部の教員と学生との交流でした。フェルガナ大学では団長で本学の元学長の伊藤司先生より



筆者 左から2番目

特別講演があり、次に中山学部長の基調講演「日本の看護学教育の現状」が行われ、次に志賀先生は「現代の日本人と人々のこころ」、私は「福島県立医科大学看護学部のカリキュラム」について報告しました。そしてフェルガナ大学の学長より「ウズベキスタンの看護学教育の現状」について報告がありました。看護師の資格は国家資格ではないとのことでした。そして、本年(2009年)は福島でシンポジウムを開催することが決められました。

(はまお さなえ)